

日比津中学校だより

名古屋市立日比津中学校
第9号
R3.12.22

TEL 052-481-8335 FAX 052-461-3548 <http://www.hibitsu-j.nagoya-c.ed.jp/>

長かった2学期が終わるとともに、令和3年も幕を閉じようとしています。冬休みは様々な季節行事もあり、あっという間に3学期が始まることと思います。束の間の休みではありますが、今年を振り返る機会とし、新たな気持ちで新年を迎えましょう。厳しい寒さが続きますが、健康に留意して過ごしてください。新年に、元気な姿を見られることを楽しみにしています。

SDGsについて学んでいます

去る10月25日、日比津中学校前校長の高瀬由有紀先生を講師にお招きし、1・2年生の一斉道徳授業を行いました。今世界中の関心が寄せられている「SDGs(持続可能な開発目標)」に関連させて、国際理解・国際協力について自分の生活と結び付けて考える内容の授業でした。

また、2年生は1学期から総合的な学習の時間に進めてきたSDGs学習を土台に、新聞読み取り活動や新聞制作などを通して「SDGsの17の目標達成のために自分にできること」を考えています。一人一人がタブレットを用いて作成したSDGs新聞を廊下に掲示したり、タブレットの共有機能を使ったりして、学年全体で互いの新聞を読み合い、SDGsについての理解を深めるとともに、よりよい表現方法を習得しています。

なお、本校2年生の新聞を活用した授業は、中日新聞社が主催する「NIE(Newspaper in Education 教育に新聞を)」の実践として、他の学校や新聞社にも紹介されます。

今後も、教科の学習内容にとどまらず、生徒たちの生きる力や情報活用能力、表現力などを育成するための実践を続けていきます。

人の気持ちを考えるということ

12月20日、スクールカウンセラーの新田さんが、2年生の一斉道徳授業を行いました。グループで挑戦した「はあって言うゲーム」では、「おどろきの『はあ』」「感心の『はあ』」「怒りの『はあ』」などのお題に合わせて演技をする活動を行いました。演者以外の方は、どのお題かを知らない状態で演技を見て、どんな気持ちで言った言葉かを当てます。ゲームを通して、相手の気持ちを想像することは意外に難しいことだと実感しました。また、相手の体験や気持ちを知るための言葉がけについても、ロールプレイを通して実践的に考えることができました。こうした授業を通して、人の気持ちを考える心が育ち、人とのよりよい関わり方が身に付いていくことを期待しています。

【生徒の感想】

- 相手の気持ちを読み取ることは難しく、普段自分も人のことを分かった気になっているだけだというときもあることが分かった。
- 自分が友達と会話しているときに、少し言葉足らずなところがあったり、逆に友達が発した言葉を理解できなかつたりする時があったので、これを機に気を付けていこうと思った。

納税の意義とは

3年生は夏休みに「税の作文」コンクールに参加しました。3組の〇〇〇〇さんが、名古屋国税局長賞という大変優秀な賞に選ばれましたので、その作文を紹介させていただきます。この機会に、納税の意義について、ぜひご家庭でも話題にしてみてください。

新しい扉

※掲載については、本人・保護者の方の了承を得ています。

僕には一緒にスポーツをしたり旅行に行ったりする兄弟はいないが、そんなことができる叔母がいる。時には言いたいことをぶつけ合って、ケンカができる仲だ。コロナ禍になる前は、毎月、叔母と祖母が住む港町に行くのを楽しみにしていた。その叔母に一大事が起こったのは、年末が近い12月のことだ。なんと、長引く新型コロナウイルスの影響で、リストラされてしまったのだ。「何だそんなこと、命に関わる程のことじゃない」と思う人もいるかもしれない。しかし、独身で働き続けてきた叔母は、祖母を扶養しながら一戸建てのローンを返済している、一家の大黒柱なのだ。心配になった僕は、恐る恐る聞いてみた。「叔母さん無職になったの？大丈夫？」「大丈夫だよ、しばらくは失業給付金があるから」母は落ち着いてそう答えた。給付金？なぜ働いていないのにお金がもらえるのだろうか。

国税局のホームページによると、失業給付金は公的保険制度の一種で、正式には雇用保険というらしい。働かなくても、お金を納めてきた人が職を失ったときにもらえるお金だ。国が国民の生活を支えるための制度で、税金の使い道として一番多い、社会保障費に含まれる。叔母は、この制度のおかげで経済的に支えられ、心の整理をする時間も得て、この大ピンチを乗り切る希望をもつことができたのである。後日、さらに驚きの続報が届いた。今度は叔母が学生をやっているというのだ。朝7時に家を出て、学校に通っているという。ハポートレーニング、通称ハポートレは、雇用保険の受給者が受講できる、無料の職業訓練制度だ。年間約206万人が利用し、そのうち約6割が就職している。叔母は実践的なスキルを身に付け、資格を取るのだという。

リストラから半年ほどが過ぎた今、叔母は大きな総合病院で医療事務の仕事をしている。これまでとは全く別の職種で再出発した叔母を僕は本当にすごいと思う。押し寄せる不安の中でも自分を奮い立たせ、新しい扉を開けた。それを可能にする土台となったのが税金だ。雇用保険は原則として労働者全員が加入すると明記されているので、国民全ての人納める税とは別の物だ。が、日本で暮らしている多くの人同士が支え合い、助け合うしくみという点では変わりがないと思う。同じように医療保険や介護保険などで、どれだけ多くの人不安や苦しさの中から救われていることだろうか。一人一人の力が大きな社会の安定を作り、時に大切な人の助けになる。

僕も数年後には社会人となり、学生でいる時間より、もっと長い年月を働くことになるだろう。自分で自分の希望の扉を用意するために、そして、少しでも誰かの力になるために、納めるべき税をきちんと納め、今回感じたことを忘れずにいたいと思う。

【保護者の皆様へ】

先日は、ご多用な中、保護者会にお越しいただきありがとうございました。学校での様子をお伝えするとともに、ご家庭での様子をお聞きすることができ、有意義な時間となりました。また、学校運営についていただいたお声は、学級、学年にとどまらず学校全体で共有し、今後に活かしていきます。今後とも、学校教育へのご理解とご協力の程、よろしく願い申し上げます。